

【東京電力からのお知らせ】福島第一原子力発電所1～4号機の状況について

取り組みの状況

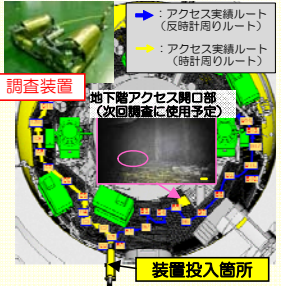
◆ 1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約10℃～約40℃※1で推移しています。また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく※2、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

※1 号機や温度計の位置により多少異なります。
 ※2 1～4号機原子炉建屋からの現時点での放出による、敷地境界での被ばく線量は最大で年間0.03ミリシーベルト(暫定値)と評価しています。これは、自然放射線による被ばく線量(日本平均：年間約2.1ミリシーベルト)の約70分の1です。

1号機 原子炉格納容器 内部調査の実施

ロボットによる1号機原子炉格納容器内部の調査を4/10から4/20にかけて実施しました。

今回の調査により、格納容器1階内部の映像、空間線量等の情報を取得することが出来ました。今後、今回の調査結果を踏まえ、別のロボットを投入し、格納容器地下階の調査を実施する計画です。



陸側遮水壁 試験凍結の開始

陸側遮水壁について、4/30から18箇所(山側の約6%)において試験凍結を開始しました。

既に、山側については、99%が施工済みです。今後、必要な手続きを経て、残りの施工を進めていきます。

1号機 建屋カバー 解体着手

5/15から1号機建屋カバーの解体に着手する予定です。

建屋カバー解体工事にあたっては、飛散抑制対策を着実に実施します。まずは、屋根パネル貫通による飛散防止剤散布を開始します。

港湾内海底土 被覆の完了

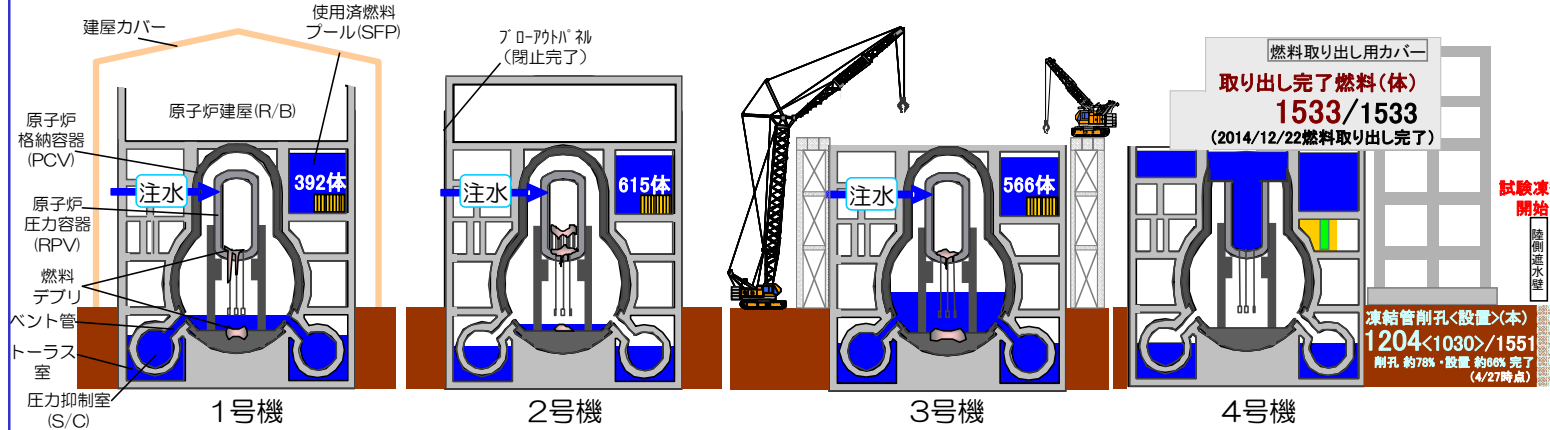
港湾内海底土の舞い上がりによる放射性物質の拡散を防ぐための海底土の被覆が、4/23に港湾内全域で完了しました。

今後、必要に応じ補強層の施工を行います。

労働環境改善に向けた取り組み

2014年8～9月に実施したアンケートの調査結果を踏まえ、個別のご意見への追加フォローやモチベーション向上、作業員のみなさまの賃金改善の取組などを実施しています。

また、2014年度に災害発生が増加したこと、及び重大な災害が連続したことを踏まえ、マネジメントの改善に向けた取り組みを計画的に実施しており、概ね5月にはすべての取り組みが施行開始される予定です。



中長期ロードマップ改訂に向けた動き

中長期ロードマップ改訂に向け、4/9に第7回福島評議会(郡山市)において、中長期ロードマップ(骨子案)をご説明しました。4/30には、原子力損害賠償・廃炉等支援機構が中長期ロードマップの技術的根拠となる「戦略プラン注」を策定しました。

引き続き、関係者の皆様のご意見を踏まえつつ、中長期ロードマップの改訂作業を進めてまいります。

注) 戦略プラン: 「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン2015」

HICふた外周部のたまり水の確認

多核種除去設備で発生する廃棄物を保管しているHICふた外周部等にたまり水があることを確認しました(保管施設外への漏えいは無し)。

漏えい拡大防止の対策を行うとともに、他のHICについても調査を行い、要因の絞り込み、再発防止対策を検討します。

注) HIC(高性能容器): 多核種除去設備等の前処理設備や吸着塔で発生する、沈殿物生成物(スラリー)や使用済吸着材を保管する容器。

3号機使用済燃料プール 現場状況確認

3号機使用済燃料プール内の大型ガレキ(燃料交換機の一部)がプールゲートに接触している可能性があったことから、調査を実施した結果、ゲートのシール性能に影響を及ぼすことはないこと、燃料交換機とゲートに接触がないことを確認しました。

今回の結果を踏まえ、今後、燃料交換機本体の撤去を慎重に進めます。

敷地境界実効線量 制限値未達の達成

多核種除去設備等による汚染水処理を進め、2014年度末の敷地境界実効線量が制限値である2mSv/年未満となりました。

今後も汚染水の処理等を実施し、2015年度末に1mSv/年未満を目指します。

注) 敷地境界実効線量: 事故後に発生したガレキや汚染水等による敷地境界における追加的線量(評価値)

情報の公開と リスクの総点検

東京電力は、K排水路データの情報公開のあり方を反省し、福島第一原子力発電所で測定する放射線データの公開範囲を4/30より順次拡大し、夏頃に全数公開します。

また、敷地外へ影響を与える可能性のあるリスクの総点検を実施しました。継続的にリスクの低減に努めていきます。

K排水路排水の 港湾内への移送

1～4号機建屋周辺から港湾外に繋がるK排水路について、4/17から仮設ポンプにより排水くみ上げを開始しました。くみ上げた排水は、C排水路を経由して港湾内へ導かれます。

2015年度内に、K排水路の排水先を港湾内へ付替えます。

情報公開に関する新たな取り組みについて

～当社が福島第一原子力発電所で測定する全ての放射線データを公開します～

- 福島第一原子力発電所の排水路対策に関する情報公開が不十分であったことにつきまして、地域の皆さまには大変なご心配をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。
- 当社は、これまでの情報公開のあり方への反省をふまえ、新たに情報公開のルールと運用を定めました。
- 「地域の皆さまの気持ち」に寄り添いながら、わかりやすく、丁寧な説明を心がけてまいります。

■ 情報公開の新たな取り組み

- ・ 当社が福島第一原子力発電所で測定する全ての放射線データを、ウェブ等を活用して広く公開します。特に社会的関心の高いものは記者会見等で解説します。



- ・ 新たな情報公開のルールと運用実績等は定期的に社外から監視・評価をいただき、透明性・信頼性を高めてまいります。

■ 地域の皆さまとの対話

- ・ 廃炉・汚染水対策の取り組みに関する情報を地域の方々にご説明し、ご意見・ご助言をいただく新しい意見交換の場を設けたいと考えております。



- ・ 各自治体の行政区（区長）や、仮設住宅自治会（会長）にも定期的にお伺いさせていただきます。

- ・ 皆さまとの対話を重ねることで、廃炉に向けた取り組みの透明性を高めるとともに、改善を進めてまいります。

福島給食センターが大熊町に完成しました

～発電所構内で温かい食事をとっていただけるようになりました～

- 発電所の作業環境の改善・充実に向け、大熊町大川原地区（発電所から約9 km地点）に建設を進めてきた「福島給食センター」が3月末に完成し、4月より一部運用を開始しました。
- 食材は、原則、福島県産を使用。給食センターで作った食事は、保温容器にいれ、約30分かけて発電所構内へトラックで運びます。
- 福島県産食材の使用、地域の皆さまに安心して働ける職場の提供を通じて、風評被害の払拭にもつながってまいります。



昼食では、定食、丼、麺類など5種類を用意



給食センター外観



「福島給食センターが出来たことで、発電所の現場で働く皆さんに、“温かい食事”を“落ち着いた環境”でとっていただけるようになりました。『美味しい』との声もいただいています。一緒に働く皆さんの健康増進につながるだけでなく、仲間とのコミュニケーションの機会も増えて、作業にも好影響を与えることと思います。

長期にわたる廃炉作業を“安全”かつ“着実”に進めるためにも、引き続き、作業環境の改善に取り組みます。」



発電所長 小野 明

多くの県内出身者に支えられて

福島給食センターの運営は、県内出身者を中心とした約100名の従業員によって支えられています。そのうち約20名が双葉郡出身の方です。なお、同センターでは、衛生管理を徹底することはもとより、従業員が安心して働けるよう、職場の線量測定も行っています。（セーター内：0.06～0.12マイクロベクレル/時）



調理の様子